より中腸腺周囲に移動するものもある。

8) 母 Sporocyst より娘 Sporocyst が脱出移行する時期は、実験室内にては、5月10日より5月16日までに感染せしめた感染貝は、平均気温 25.3°C にて飼育し、感染后6週間より7週間の間に脱出が開始された。野外実験にては、8月16、21日に感染せしめた感染貝は、外界平均気温 21.6°C にて、感染后3週間より4週間の間に脱出が開始された。

9) 母 Sporocyst の発育のため、実質性組織、及び支持組織の崩壊がおこり、又、娘 Sporocyst の移動発育のため、両生殖腺は勿論、他の実質性組織、及び支持組織の崩壊がおこるので感染貝の生殖能力は減退、又は消失し、且つ寿命は短縮されるものと思はれる。

参 考 文 献 省 略

図 表 1～48 及び**図説明**省略

（本論文の詳細は北関東医学雑誌第7巻第5巻に掲載。尚本論文の要旨は第17回日本寄生虫学会東日本支部大会に発表。）

13. 沪紙電氣泳動法による日本住血吸虫病患者の血清蛋白分屑像について

佐 藤 重 房

最近、安郎・山崎氏等は慢性日本住血吸虫病（以下住血病と省略）患者血漿について、古沢氏は住血病感染家兎の血清について、又 Evans, Stirewalt 等はマンソン住血吸虫感染マウスの血清についての蛋白分屑像を報告したが、住血病患者を対象として特に我々が臨牀上しばしば遭遇する亜急性者並鈎虫症合併者の血清蛋白分屑像についての報告が未だ見られないので、本実験を濾紙電気泳動法により実施した。

実 験 材 料

昭和32年2月より5月に至る期間、初感亜急性住血病患者25例、初感亜急性住血病兼鈎虫症患者22例、慢性住血病患者12例、住血病既往者14例の血清を使用した。

実 験 方 法

装置は東洋理化濾紙電気泳動装置 K-I 型を用い、緩衝液は Veronal buffer (PH 8.6 μ0.05)、濾紙は東洋濾紙 No. 51 (2×40cm) を用い、血清 0.01cc を直流濾紙巾 1cm につき 0.35mA、電圧は 400V～200V で室温にて5時間泳動した後、110°C 15分間加熱乾燥固定した。蛋白質の確認は 1% bromphenol blue 昇汞飽和エタノール液中で20分染色した後、0.2% 醋酸洗液で洗滌、室温にて自然乾燥、ammonia-gas にて処理、パラフインにて半透明化した後濾紙泳動光電比色計で定量した。血清総蛋白量は日立蛋白計を用いた。

結 果

各群に於ける血清蛋白分屑平均値の比較は表に示す如くである。

1、血清総蛋白量は各群共増減の差異は認められなかつた。

2、 亜急性住血病と亜急性住血病兼鈎虫症との蛋白分屑濃度比には差異は認められなかつた。その分屑像は albumin の減少、α_1 - glob. の著明な増加、α_2 - glob. の増加、β - glob. の不変、γ - glob. の増加、A/G 比の著明な減少が認められた。

3、 慢性住血病の分屑像は、albumin の著明な減少、α_1 - glob. 及び α_2 - glob. の著明な増加、β - glob. の軽度の増加、γ - glob. の著明な増加、A/G 比の著明な減少が認められ、肝硬変症と殆んど同様な分屑像を示した。

4、 住血病既往者の分屑像は、Albumin の軽度の減少、α_2 - glob. の軽度の増加、α_1 - glob. β- glob. の不変、γ - glob. の増加、A/G 比の減少が認められた。

5、 住血病患者及びその既往者は血清蛋白分屑像上、Albumin の減少、α_2 - glob., γ - glob. の増加、A/G 比の減少が認められたが、これは肝機能障害を裏付けるものである。

6、 γ - glob. の増加は肝の虫卵による器質的障害及び肝、脾の虫体、虫卵毒素による器質的、機能障害的によるもので、形質細胞の増加、免疫抗体の出現等一連となつて現われる生体の反応である。

各群に於ける血清蛋白分屑平均値の比較

病種別	亜急性住血病	亜急性住血病兼鈎虫症	慢性住血病	住血病既往者	正常人
例数	25	22	12	14	15
T.P.	7.6±0.1	7.7±0.2	7.7±0.7	7.4±0.2	7.3±0.9
al.	41.0±1.5	39.1±0.9	34.5±1.4	44.0±1.8	50.7±0.7
gl.					
α_1	6.6±0.6	7.1±0.5	6.8±1.2	4.8±0.7	4.6±0.5
α_2	11.0±0.8	10.9±0.6	12.6±1.3	10.3±1.1	8.7±0.9
β	14.3±1.1	15.5±0.6	15.6±2.2	14.7±1.8	14.1±1.4
γ	27.2±1.4	27.4±2 2	30.6±3.0	26.2±2.1	21.6±2.1
A/G	0.70±0.06	0.65±0.08	0.53±0.07	0.79±0.06	1.03±0.02

14. 山梨県有病地学童の年間に於ける日本住血吸虫卵保有状況について

大田秀浄、佐藤重房、秋山澄雄、中山　茂

日本住血吸虫（日虫と略す）の人体の感染率は逐年減少し、塗抹法にては日虫卵の検出に極めて困難となり、集卵法にて実施しても検出虫卵数は極めて少数となつた現状であるので、有病地学童の年間に於ける日虫卵の保有状況を詳細に知らんとして、山梨県有病地の、中巨摩郡某小学校学童3学年107名、6学年81名の集団検便を MIFC 変法による集卵法にて昭和31年2月より32年1月まで毎月1回実施し2・3の知見を得たので報告する。